

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 52

2017年4月発行

さくら 咲く



当法人が運営する放課後等デイサービスの「楽童ほうぶ」では、この春、2名の児童が中学校に進学し、5名の生徒が高校に進学し、1名の生徒が高校を卒業しました。どの生徒も希望に胸を膨らませ、いい春を迎えました。

中学校に進学した子どもたちは、新しい制服を着て、ちょっとお兄さんお姉さんに見えます。保護者の方々は、進路先を迷い悩みしていらっしやいましたが、6年生の中ごろには進学先を決められました。当放課後等デイサービスでも、個別支援計画の中に中学校進学準備を入れ、3月には、進学に向けて、個人将来計画ワークショップも開催しました。高校に進学した生徒たちは、いろんな進路の情報を集め、高校を見学したり集会に参加したりしてきました。私たちも、昨年の春に個人将来計画ワークショップを開いて、進学に向けての計画を作り、本人や保護者の方々と一緒に悩んできました。大阪府下には知的障害生徒自立支援コース、共生推進教室、エンパワメントスクールなど、知的障害をもつ生徒が入ることができる高校もありますし、専修学校や私立高校の中には知的障害児や発達障害児が入学している学校もあります。しかしながら、その門は決して広くありません。また、高等学校は義務教育ではなくなりますから、さまざまな面で小中学校のように丁寧に対応してもらえない部分や、通学も遠距離になる場合が多いので、自力で通学できない生徒は通学送迎の課題もでてきます。受験の壁だけでなく、通学の壁もあるのです。ほうぶでは、3名の生徒が公立高校の受検に挑み、みごと合格しました。どの生徒も悩み考えた結果、それぞれの希望した学校に進みました。高校を卒業する生徒は、ほうぶからも親元からも旅立ちます。さくら咲く、門出の春です。

障害をもつ子どもたちと保護者にとって、進路の問題は、とても大きな悩みになります。地域の学校を希望しようか支援学校を希望しようかと悩み続け、地域の学校を希望した場合、どのように学校に働きかけていこうかと、また悩みます。近年では、学校選択制の制度もでき、地域の学校もどの学校に行こうかと悩む保護者もあり、悩みは増えてきたように感じます。どの子も地域の学校で受け入れられ、どの子も希望する学校に入学できる、どの学校にも、そして、地域社会にも、当たり前障をもつ人がいる、そんな社会になってほしいです。

NPO法人地域生活サポートネットほうぶ 向井裕子

清水フェスティバルに参加

日時：2017年3月5日（日）10：00～14：00

会場：清水小学校



主催：清水フェスティバル実行委員会・清水校下地域活動協議会

参加者：子ども7名、学生ボランティア6名

清水校下地域活動協議会の方に声をかけていただき、清水小学校で行われた地域の行事「清水フェスティバル」に参加しました。子どもたちが作った七宝焼きの作品やさをり織作品やクルミボタンの作品を並べました。革のキーホルダーにイニシャルを入れる実演販売も行いました。地域の方々がいろんなお店や体験コーナーを出店されていて、食べ物のお店は長い行列ができていました。子どもたちは順番に店番をしたりお店を回ったりして楽しく過ごしました。自分たちが作ったものを販売するという仕事体験ができ、前日の準備とイベント当日に地域の方々と交流でき、とてもいい機会になりました。また、来年も参加したいと思います。

＜ボランティアの感想から＞

- ・今回はAくんの担当でした。めんどくさいと言いながらもお店の仕事をしっかりとしました。お客さんとしゃべって商品をすすめたり、お金の計算もしっかりとしていました。休けいの時は、フランクフルトとポテトを買って食べていました。ポテトに並んでいるときに、小学生と仲良くなったりと楽しそうにしていました。Aくんはプロレスの絞め技をよくして、以前は注意してもなかなかやめてくれなかったのですが、今回は注意するとすぐにやめてくれました。ほうぷに来る中で成長しているんだなと思いました。
- ・少し疲れました。子どもが元気で走りまわっていたため、私もけっこう走りました。販売のときは少し出しゃばり過ぎたかなと感じています。自分がセールストークするのではなく、子どもに教え、やってもらえば良かったと思いました。



セミナー「共に育ちあい共に生きる社会を創る」

～すべての人が、共に暮らしやすい地域の実現をめざして～

日時：2017年3月16日（木）10：30～12：00

主催：清水校下地域活動協議会

実施団体：地域生活サポートネットほうぶ

場所：さくら苑地域交流スペース



講師：新崎国広氏（大阪教育大学教養学科准教授）

参加者：地域住民8名

現在、日本の地域社会には、貧困・孤独死・虐待・引きこもりなど、たくさんの福祉課題があります。また、震災が続き、「絆」の大切さが再認識されています。すべての人が暮らしやすい地域とはどんな地域なのでしょう？ 共生社会を創っていくために、私たちはどんなことができるでしょう？ ちょっとした気づきや参加しやすい活動で、地域はより良くなります。社会的孤立を防ぎ、福祉コミュニティづくりをするために、地域住民のできることを一緒に考え、みんなで元気になるセミナーを開催しました。参加者はとても少なかったですが、全員がよかったと感想をくださいました。今後も地域に根ざした活動を続けていきたいと思えます。

<参加者の感想から>

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・障害者の社会参加をテーマに取り組んでることがあって、とても参考になった。助けられ上手になりたい。
- ・広範囲にわたるお話が聞いて参考になりました。地域での実践はなかなか難しいですね。
- ・日本の現状、今に至る経過なども良くわかりました。お話をお聞きして、一人ひとりが少し気づけばできることを多くの人に伝えていきたいと思えました。生まれ育った旭区、みんなが自分らしく生きて死んでいける地域にしていきたいと思えました。
- ・企画は良くても受講生が少ないのは寂しい。いい企画、多くの参加者を望んでいます。
- ・旭区にこんな活動があることをもっと知らせていくことができれば良いなと思えました。



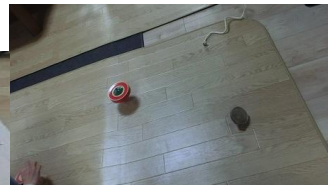
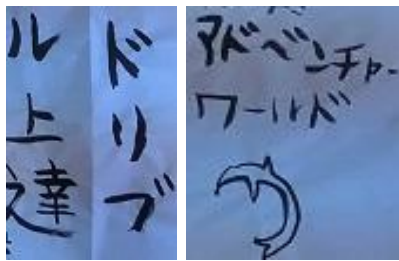
放課後等デイサービス「楽童ほうぶ」報告

1月は、初詣に始まり、凧揚げや七草粥作り、書き初め、昔遊びと餅作りなど、季節を感じる遊びを楽しみました。七草は、スーパーで買って来た七草を並べ、ごぎょう・はこべらなど、写真と比べながら勉強し、その後、七草粥を作って食べました。昔遊びは、地域のご婦人の方々4名が来てくださり、お手玉やコマ回しや紙でっぼうなどを教えていただきました。子どもたちもスタッフもコマ回しに熱中して何度もチャレンジし、上手に回せるようになりました。その後、餅つき機で作ったお餅を丸めて、おやつにしました。また、高校を卒業する生徒の個人将来計画ワークショップを開催し、社会に巣立っていく生徒の将来を考えながら、本人とご家族、友達、ピアカウンセラーなどが集まり、いろんな意見を出し合いました。

2月も、巻寿司作りや豆まきをして、季節の行事を楽しみました。巻寿司は、昨年まではご近所のご婦人たちに教えていただきながら作りましたが、スタッフも子どもも要領がわかってきたので、今回は助けを借りずに頑張ってみました。のりが破れることもなく、

なかなか上手にできました。豆まきは思い思いのお面を作って楽しみました。また、12月に好評だった焼き芋もしました。そして、28年度一年間、音楽の時間を担当してくれた大学生さんたちが卒業するため、最後の音楽会を開催しました。音楽療法の道に進む学生さん、今後の方向を模索する学生さん、ほうぷでの体験がこれからの仕事や活動に役立ちますように。1月2月は、保護者との個別の懇談も行いました。ほうぷの活動だけではなく、日々の生活の中での悩み事や、今後の学校生活のことも話してくださいました。今後も保護者の話に耳を傾け信頼関係を築いていきたいと思えます。

3月は、中学校と高校を卒業する生徒とスタッフでエキスポランドへ卒業遠足に行きました。また、小学校を卒業する生徒2名のワークショップを開催しました。中学校へ進学する児童の中学校生活やその先の暮らしを考えながら、本人とご家族、教員、友達、ピアカウンセラー、関係者が集まり、いろんな意見を出し合い話し合いました。計画は中学校や関係事業者にも配布しました。3月下旬には京都鉄道博物館にバス遠足をしました(6頁参照)。なんだか、あっという間の3ヶ月でした。



回れ

まわれ



おいしくできたよ

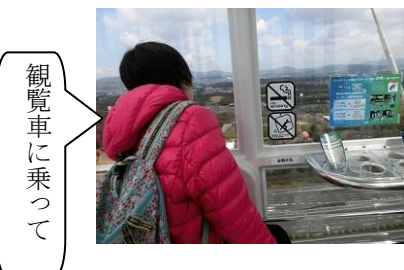


今年の抱負?
いえ、自由に じゆうに



どう? こわそうな
オニ! 豆まきしょ!

卒業後の生活に必要な
な物を買いました



観覧車に乗って

卒業遠足



ほうぷの友だちが
喜ぶおもちゃは～



たこあげ & 七草がゆ



日時：2017年1月7日（土）

参加者：子ども12名、学生ボランティア8名

子どもたちと学生ボランティアと一緒に、ゴミ袋とストローと細紐を使って、凧を作りました。凧に好きな絵や文字をマジックで描きました。お昼は、春の七草の勉強をして、七草がゆを作って食べました。午後は、淀川まで歩いて行き、河原で凧あげをしました。とても良いお天気で、風がなくて、みんな走り回って揚げました。

＜ボランティアの感想から＞

- ・小学生以来のたこあげでした。まず、たこを作るところからはじめましたが、初めて作りました。Bちゃんが作るのを手伝いました。みんなのたこをみて、個性がでているなあと思いました。淀川に行ったたこあげしたけれど、今日は風があまり吹いていなかったの、みんなダッシュしないといけなくて大変そうでした。でも、みんな笑顔で楽しそうだったので良かったです。最近はたこあげができる場も少ないし、たこあげする機会も少ないので、貴重な経験ができたなあと思います。七草がゆもおいしかったです。今日はすごく楽しい一日でした。
- ・たこの作り方が本当に簡単で、やりやすかったです。他の活動でもできるかと思いました。七草がゆは、七草全く分かりませんでした。子どもたちが楽しく覚えていていいなと思いました。凧あげに行くとき、ところどころ車の通りが多い所があって、左右のかくにん、横断歩道の渡り方など子どもの前なので特に気をつけないといけませんでした。Cちゃんは恥ずかしがりやですが、だんだん話してくれるようになって、よそよそしい敬語だったのが親しみをもった会話になってきて、少し距離が近づいてうれしかったです。



バス遠足 京都へ行こう！

～京都鉄道博物館と生八つ橋手づくり体験～

日時：2017年3月28日（火）

参加者：子ども11名、学生ボランティア9名

観光バスに乗って京都に行きました。京都鉄道博物館では、電車や新幹線・蒸気機関車を見たり、乗ったり、さわったり、切符を買って改札を通ったり、色々な体験をしました。SLに乗って楽しんだ子どもたちもいました。八つ橋庵では、つぶあん・いちご・ショコラの3種類の生八つ橋を作って食べました。春休み、京都ならではの体験をしてきました。

＜ボランティアの感想から＞

- ・鉄道博物館では、自分で行きたい場所を見つけ、次々と色々な場所を回って楽しそうにしていたので良かったなと思いました。八つ橋作りでは、作る回数を重ねる度に、上達していき、

作り方等を自分なりに考えながらしているんだと思って見ていました。

- ・自分は久しぶりにほうぶに参加したのですが、子どもたちに落ち着きがうまれていたと思いました。この遠足を通して、文句を言っていた子どもを見かけることがなく、自分が参加していなかった間にも子どもたちは日々成長しているのだなと感じました。鉄道博物館も八つ橋作りも経験したことのない行事だったので自分にとっても良い経験になりました。



2016年度事業報告

1. 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業（放課後等デイサービス）

職員と開所日を増やし事業の拡充をはかった。定期的な個別支援計画の見直しの際にケース会議を行い、スタッフ全員で課題と支援方法を共有化して質の向上をはかった。保護者との懇談や「子どもからはじめる個人将来計画」による計画作成及び実践を継続することで、保護者と信頼関係を築き、それぞれの子どもに対して関係機関とのネットワークを構築していくことができた。また、「自立生活プログラム・子ども版」を用いて、「衣」をテーマにしたプログラムを実施し、子どもたちが服装について考えたり買い物体験したりファッションショーで自己表現をしたりした。仕事体験で喫茶も体験し、社会生活体験を広げることができた。毎月、地域の方々やボランティアの協力を得て、季節の行事や外出イベントを開催し、こども達の余暇の充実をはかると同時に、地域住民や学生ボランティアの障害児に対する意識啓発をすすめることができた。昨年度まで、障害児者の自立に向けた支援事業で行ってきた活動の多くを放課後等デイサービス事業に取り込んだ。これにより、自立に向けての支援を計画的に継続的に実践することができた。また、旭区一斉防災訓練に参加して避難経路や避難場所を確認し、非常災害対策のマニュアルを作成して、災害への備えを行うことができた。大阪市の実地指導を受け、事業運営上必要な改善を行うことができた。

2. 障害児者の自立に向けた支援事業

大阪市旭区社会福祉協議会善意銀行「児童育成事業等助成」を受け、サマーキャンプを行った。

障害をもつ子ども達が保護者から離れ、学生ボランティアたちと一緒に宿泊の体験をする中で、グループ活動の楽しさやルールを守ることの大切さを学ぶことができた。学生ボランティアは、子どもたちと一緒に活動して、様々な気づきや学びを通じて、障害児への理解を深めることができたと考える。毎年恒例となった浴衣を着て夜店に行くイベントでは、老人クラブ連合会のご協力で、子どもたちも学生ボランティアも貴重な体験をすることができた。特に今年度は、数名の大学留学生が参加し、日本の文化を感じてもらう機会となった。地域のイベントに参加して、子ども達が自分たちの作品を販売し、地域の方々と交流もはかることができた。

また、旭区地域自立支援協議会に参加し、地域の関係団体とのネットワークにより障害者の地域生活支援に取り組み、子ども部会においては、就学相談会の開催と保護者向けセミナーの開催などの活動に取り組んだ。相談会やセミナーには多くの障害児の保護者の参加があった。障害児家族の支援を行い、地域の障害者福祉に対する意識啓発ができたと考える。

3. 子育て支援事業

「あさひの輪」「旭区子育て安心ネットワーク」に参加し、定例会で情報交換や意見交換を行い、旭区内の子育て支援イベント「子育てわいわい広場 in ASAHI」の開催に協力し、区内の子育て支援体制の充実に向けての活動を継続することができた。

4. 生涯学習講座等の企画・運営支援事業

ヘルパーを対象とした研修会や障害児療育施設での講師を行った。

5. まちづくりの推進に関する企画及び研究事業

地域活動協議会に入り地域活動に参加し、地域活動協議会の主催で、地域で共に育ち生きるをテーマとしたセミナーを実施した。地域住民や関係機関と連携しながら事業を展開することができた。今後もより地域に密着した活動に取り組んでいくことができると考える。



新年早々にひどい腰痛が長く続き、ご近所の方々にたくさん助けていただきました。よく乗り越えられたと思うような綱渡りの日々でした。先日、「幸せとは一人では生きていけないこと」という言葉を聞きました。ならば、きっと今は幸せ。支えられて生きているから。

門出の春。みんな幸せでありますように。つらい気持ちを抱えるあなたにも寄り添ってくれる誰かがいますように。そしてまた、あなたが誰かに寄り添ってくれますように。

